
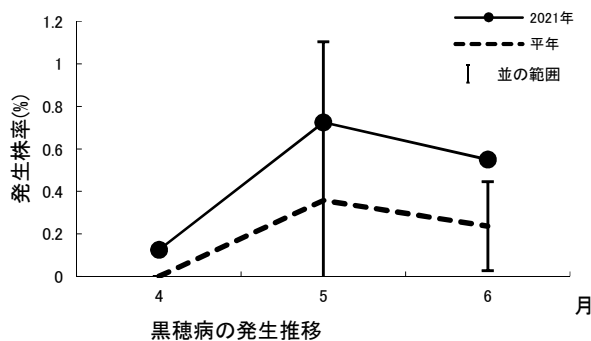


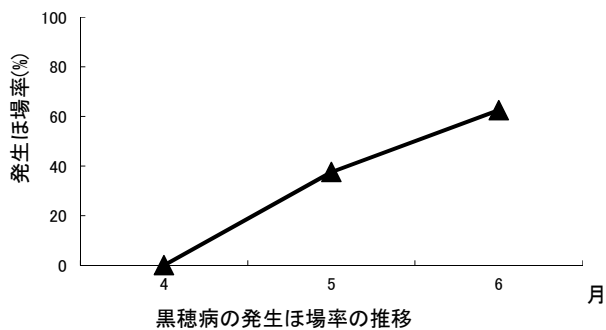
作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	黒穂病			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	6 月からの増減傾向	—		
	7 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

今期と平年の推移




発生ほ場率の推移 (2020年)



・ 黒穂病発生ほ場率 : 40.0% (平年値 : 17.9%)

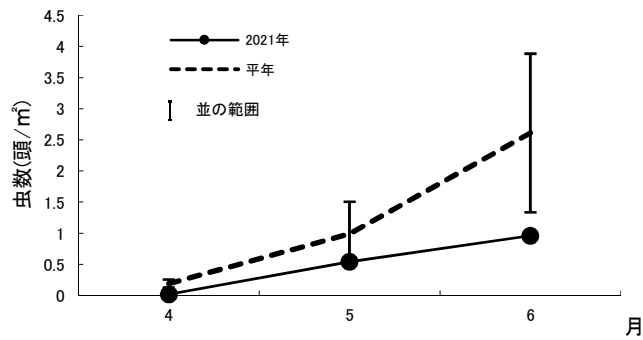
防除のポイント

- ・ 発生は4月頃から見られ、6~8月に多くなる。
- ・ 胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。
- ・ 発病ほ場やその隣接地から採苗しない。

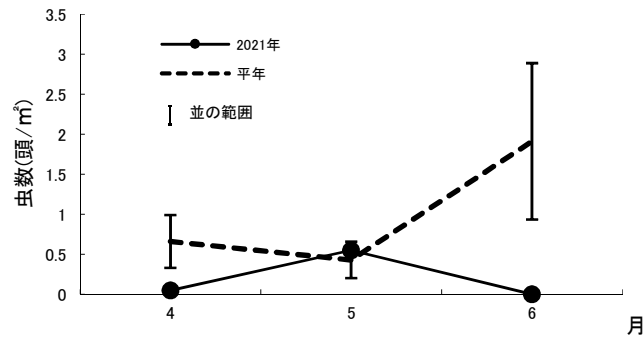
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	6 月からの増減傾向	—	
	7 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



来間島におけるバッタ類(採草地)の発生推移




来間島におけるバッタ類(さとうきびほ場)の発生推移

・発生種：台湾ツチイナゴ

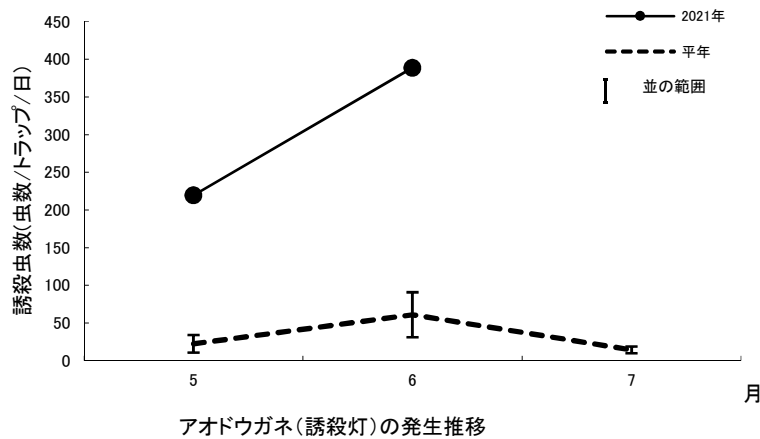
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	アオドウガネ			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	多		
予報	6 月からの増減傾向	↓		
	7 月の発生量 (平年比)	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		


調査結果

トラップ調査 (アオドウガネ成虫)



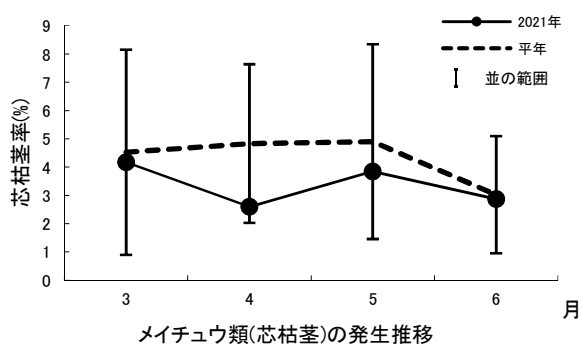
防除のポイント

- ・サトウキビにおけるアオドウガネ被害は、土壌に生息する幼虫食害により、収穫期の立枯による減収や株出不萌芽の原因となる。成虫は5～7月に出現し、その後サトウキビなどイネ科植物の地下部に産卵する。
- ・成虫発生時期の誘殺灯による大量誘殺、6～10月の幼虫若齢期に薬剤による防除を実施する。

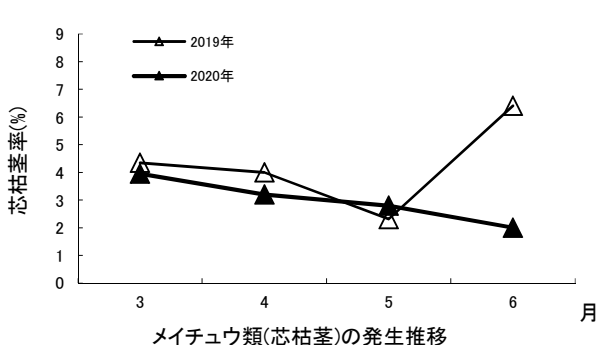
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	—	
		7 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

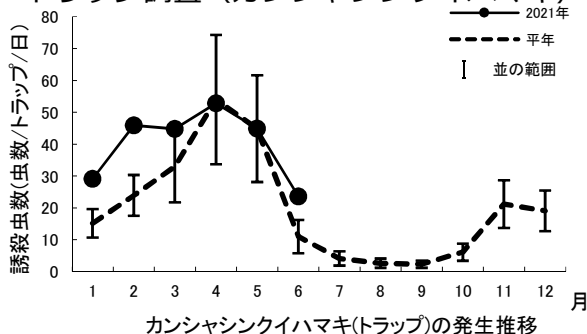
今期と平年の推移



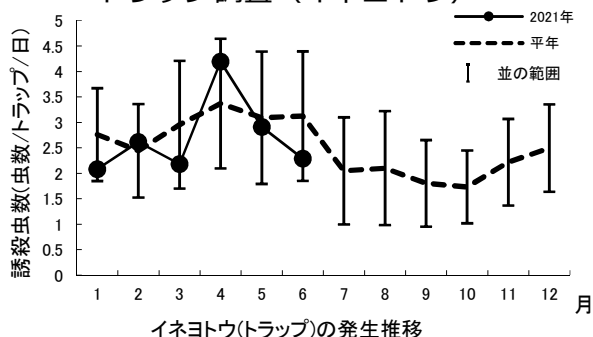
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)



トラップ調査 (イネヨトウ)



- ・ 芯枯れ発生ほ場率 : 75.0% (平年値 : 77.4%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、100% (2/2頭) がカンシャシクイハマキ、0%(0/2頭)がイネヨトウであった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。